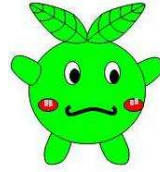


校区にある地名



双葉小学校校区の地名は、
どのようにしてついたので
しょうか。

土居田

南北朝時代（今から650年ほど前）に、この辺りの土地は土居氏という豪族のものでした。土居氏の住まいは、現在の本村公園の南西付近であったのではないかとされています。その周囲は土居氏の田んぼであったというところから、土居田という地名になったと言われています。

「たちばなの郷」（平成15年 郷編集委員会）より

和泉

村内各所に湧泉（自然に水の出るところ）があって、水が出るところから出水、この出水（いづみ）から和泉（いずみ）となったのが名の起こりと言われています。

「和泉郷土誌」（昭和62年 和泉郷土誌編集委員会）より

小栗

小栗村は昔からある地名です。雄群村誌によると、小栗、藤原、竹原、土居田、針田が明治22年に一つになって、雄群村（おぐりむら）となったそうです。小栗にある氏神様の名前からとったようですが、もともと氏神様の名前に入っている文字は「雄郡」であり、「雄群」と書き間違えたという説が記述してあります。雄群（おぐり）が雄郡（ゆうぐん）に変わった（本来の字に戻した）時期ははっきりしませんが、昭和8年には、学校の名前が雄郡尋常小学校となっているようです。

現在残っている「雄郡一丁目」と「雄郡二丁目」は、旧小栗村と旧竹原村とからできています。昭和47年に雄群村（おぐりむら）が松山市に合併するとき、当時の村長が「雄群の名を残したい」という思いが強く、「雄郡」という町名ができたのではないかという説もあります。

「たちばなの郷」（平成15年 郷編集委員会）より

空港通

昭和50年に竹原町、生石町、小栗町のそれぞれ一部が合わさって、空港通一丁目となりました。また、昭和63年に、生石町と南斉院町の一部が空港通二丁目という住居表示に変わりました。文字通り、空港に向かう道路が建設されたのに伴う変更です。

「たちばなの郷」（平成15年 郷編集委員会）より

保免

この土地のいわれには、二つあるようです。

河野家がこの一帯を治めていた頃、軽い罪を犯した者をこの辺りまで護送して来て解き放していたこと、後の松山藩主もこの辺りで解き放す（放免する）土地と決めていたことから、この辺りを「放免」というようになり、後に「保免」になったというのです。

もう一つは、この土地には大きな寺院があり、寺が持っている水田も多く、税金を免除されていたので保免と呼ばれるようになったという説です。

「たちばなの郷」（平成15年 郷編集委員会）より